授業科目	看護学概論	担当教員	専任教員☆	単位数	1	時期	1年次 4月～6月	DP	1・2 4・5 7
				時間数	３０				

目的と目標	
	看護の基本概念としての人間・健康・環境・看護について理解し、看護の位置づけと機能、役割を学ぶ。 1 看護の基本となる概念および看護の機能と役割について理解できる。 2 医療・看護における倫理について理解する。 3 看護師としてのキャリアを描き、自己の目標に向けて、何を学び、どう行動すればよいか考えることができる。

回数	学習課題	内　　容	方　法	担当教員
1 2 3 4	看護の本質と専門職としての看護	（1）看護の変遷（専門職としての看護の発展） （2）看護の定義 ①保健師助産師看護師法における定義 ②看護職能団体による定義 ③看護理論家による看護のとらえ方 （3）看護の機能と役割 （4）看護実践とその質の補償に必要な要件 （5）専門職としての看護組織	講義 GW	専任教員 （　　）
5 6	看護の対象	（1）人間とは （2）生活者としての人間 （3）個人、家族、コミュニティ、地域社会	講義 GW	
7	健康と看護	（1）健康の概念 （2）ヘルスプロモーション等の考え方 （3）健康障害とその影響	講義 GW	
8	環境と健康	（1）内的環境と外的環境 （2）外的環境が与える内的環境への影響 （3）環境調整と看護の役割	講義 GW	
9	看護の基本概念の整理	（1）人間・健康・環境・看護とは	講義 GW	
10 11	看護における倫理	（1）看護における倫理の必要性 （2）看護職の倫理綱領	講義 GW	
12 13 14 15	看護師としてのキャリア形成 （7時間） 試験（1時間）	（1）キャリアとは （2）看護師の活躍の場と認定看護師・専門看護師・認定看護管理者・特定行為、コミュニティナースの資格と活動 （3）主体的に学ぶとは （5）リーダーシップとフォロワーシップ （6）キャリアデザインを描くと共に、2年間、何をどのように学ぶかを考える	講義 GW	

評価方法	筆記試験　70点　　自己評価・ピア評価　10点 レポート　20点「自己の目標に向けて、何を学び、どう行動すればよいか考える」 合計　　100点　　＊再試験の場合、筆記試験100点分で評価する。
教科書 参考文献	系看専門Ⅰ看護学概論（医学書院）／系看別巻看護倫理（医学書院） 実践に生かす看護理論１９（サイオ出版）／看護の基本となるもの（日本看護協会出版会） 看護六法　令和５年版（新日本法規出版）／看護覚え書（現代社）
事前準備や 受講要件等	**入学時の『看護観』を記載して持参する。** 適宜提示する課題に対して、期限を厳守して提出する。 教科書を読んで講義に臨むこと。
☆担当教員の実務経験	看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。

授業科目	看護過程	担当教員	専任教員☆	単位数	1	時期	1年次 5月～7月	DP	4
				時間数	３０				

目的と目標	
	看護の対象者の個別的なニーズに対応するため、看護の過程における思考の方法を学ぶ。 1　看護過程を展開する際に基盤となる考え方について理解できる。 2　看護過程の各段階について、その基本的な考え方を理解することができる。

回数	学習課題	内　　容	方　法	担当教員
1	看護過程の概要	（1）問題解決過程 （2）クリティカルシンキング （3）臨床判断 （4）リフレクション	講義	専任教員 (　　)
2	看護過程の各段階の概要	（1）アセスメント （2）看護問題の明確化（看護診断） （3）看護計画 （4）評価		
3 4	対象を捉える枠組み	（5）ゴードンの機能的健康パターンとは	GW	
5	看護診断	（6）NANDA－Ⅰの看護診断	講義	
6 7 8 9 10 11 12 13 14	看護過程の各段階の実際	（7）運動機能障害として大腿骨頸部骨折を用いた事例展開 ①情報の収集と分析 ②問題の明確化 ③優先順位の決定 ④看護計画の立案 ⑤実施 ⑥評価と計画の修正	講義 演習	
15	看護記録	（8）看護記録とは	講義	
	試験（1時間）			

評価方法	筆記試験　100点
教科書 参考文献	系看専門　基礎看護技術Ⅰ（医学書院）／系看専門　運動器（医学書院） ゴードン博士の看護診断アセスメント指針（照林社） 看護過程に沿った対症看護（学研）／看護に役立つ検査事典（照林社） NANDA‐Ⅰ看護診断　定義と分類（医学書院）
事前準備や 受講要件等	提示する課題に対して、期限を厳守して提出する。 教科書を読んで講義に臨むこと。
☆担当教員の 実務経験	看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。

授業科目	看護技術の 基礎・基本	担当教員	専任教員☆	単位数	1	時期	1年次 4月～7月	DP	3 2
				時間数	３０				

目的と目標	
	看護技術の基礎となる考え方を理解し、看護実践の基本となる看護技術について学ぶ。 1　看護技術の特徴を理解し、看護師が提供する看護技術について述べることができる。 2　対象者及び看護者の安全を守る意義を理解し、安全を守る技術を身につけることができる。 3　看護師が行う環境調整の意義を理解し、環境を整える技術を身につけることができる。 4　安全・安楽な日常生活援助技術を提供するための、援助方法の根拠を理解することができる。 5　課題に対し、他者と協働し主体的に取り組むことができる。

回数	学習課題	内　　容	方　法	担当教員
1	看護技術の特徴	（1）看護技術とは （2）日常生活援助における安全・安楽・自立 ①安全の意義と保証 ・安全とは ・安全を保証することの重要性 ・医療事故とは （3）日常生活援助技術における安全 （4）安楽とは （5）安全・安楽な技術を提供するために、どのようなことを身につけるか （6）看護技術の実施における倫理的態度 （7）看護技術を提供していく時の倫理的配慮について、今までの経験から考える	講義	専任教員 （　　）
2	安全を守る技術	（1）ボディメカニクス （2）感染予防の基礎知識 ①感染予防の意義 ②感染症を成立させる要素と成立過程 （3）スタンダードプリコーション （4）感染経路別予防策 ①接触予防策 ②空気予防策 ③飛沫予防策	講義 演習	
3		（5）感染症を予防するための技術 ①手指衛生 ②個人防護具の選択と着脱 ③無菌操作		
4 5 6 7 8 9 10	環境を整える技術 （13 時間）	（1）看護師が行う環境調整とは （2）病室の環境と病床内環境 （3）環境のアセスメント （4）病床を整える技術 ①ベッドメーキング ②シーツ交換　※ （体位変換・水平移動も含む）	講義 演習 ※技術チェック	

回数	学習課題	内　　容	方　法	担当教員
11 12 13 14 15	日常生活援助技術の基本 （9 時間）	（１）日常生活援助技術における危険 （２）安全・安楽を阻害する因子とその回避方法 （３）日常生活援助技術の基本 ①寝衣交換 ②陰部洗浄 ③洗髪 ④全身清拭 ⑤食事介助 ⑥床上排泄 ⑦移乗・移送 ⑧手浴、足浴、入浴、シャワー浴 ⑨睡眠の援助 ※資料作成実施	講義 演習 GW	専任教員 （　　）
16	まとめ （2 時間）	（１）看護師が提供する看護技術とは	講義 GW	

評価方法	レポート 60 点 シーツ交換　技術チェック 20 点 自己評価 10 点、ピア評価 10 点（10～15 回目）　　合計 100 点 ＊再試験の場合、レポート 100 点分で評価する。
教科書 参考文献	系看専門　基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ（医学書院） 系看統合　医療安全（医学書院） ビジュアル臨床看護技術ガイド（照林社）
事前準備や 受講要件等	提示する課題に対して、期限を厳守して提出する。 教科書を読んで講義に臨むこと。
☆担当教員の 実務経験	看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。

授業科目	対象理解の技術	担当教員	専任教員☆ ① 外部講師☆ ②理学療法士	単位数	1	時期	1年次 6月～11月	DP	1 3 4
				時間数	３０				

目的と目標	
	対象との関係性を維持し、対象を共感的及び客観的に理解するための技術について学ぶ。 1　看護におけるコミュニケーションの重要性を理解し、傾聴・共感的理解・寄り添うについて理解することができる。 2　関係性を維持しながら、意味ある情報を得るコミュニケーション技術の方法を理解することができる。 3　全身状態を系統的に把握するためのフィジカルアセスメントの基本的知識・技術を身につけることができる。

回数	学習課題	内　　容	方　法	担当教員
1 2 3 4 5	コミュニケーション技術 （10時間）	（1）看護におけるコミュニケーションの重要性 （2）効果的なコミュニケーションの実際 ①傾聴 ②共感的理解 ③寄り添う （3）関係性を維持しながら意味ある情報を得る技術 ①必要な情報を得るための技術 ・オープンエンドクエスチョンとクローズドクエスチョン ②対象の理解をするための方法 ③対象の理解をするためのコミュニケーション技術の活用 （4）認知症のある人に対するコミュニケーションの特徴 （5）自己の振り返りの手段 ①プロセスレコード ②リフレクション	講義 演習 ロールプレイ	専任教員 （　　）
6 7 8 9 10 11 12 13	フィジカルアセスメント （19時間）	（1）ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメント （2）フィジカルアセスメントの基本技術 問診・視診・触診・打診・聴診 （3）バイタルサインの観察とアセスメント ①体温・脈拍・呼吸・血圧の調節のメカニズムと影響因子 ②体温・脈拍・呼吸・血圧・意識の異常とそれが示す意味 ③測定の実際 ④報告 (4) フィジカルアセスメントの実際 ①呼吸器系 ②循環器系 ③消化器系 ④脳神経系 ⑤運動器系	講義 演習	専任教員 （　　） 外部講師 （　　）

回数	学習課題	内　　容	方　法	担当教員
14 15	試験（1 時間）	（５）技術到達度の確認（バイタルサイン測定、呼吸音、心音の聴診）　※ （６）看護場面におけるフィジカルアセスメント	※技術チェック 臨床判断	専任教員 （　　）

評価方法	筆記試験　100 点
教科書 参考文献	系看専門　基礎看護技術Ⅰ（医学書院） フィジカルアセスメントガイドブック（医学書院）
事前準備や 受講要件等	提示する課題に対して、期限を厳守して提出する。 教科書を読んで講義に臨むこと。
☆担当教員の 実務経験	①看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ②理学療法士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。

授業科目	日常生活援助技術	担当教員	専任教員☆	単位数	1	時期	1年次 6月～11月	DP	3 4
				時間数	３０				

目的と目標	安全・安楽な日常生活援助技術の基本を習得し、対象の状態に合わせた日常生活援助技術の適用方法について学ぶ。 1　根拠に基づいた安全・安楽な日常生活援助技術を身につけることができる。 2　対象の状態に合わせた日常生活援助を選択するための観察の視点を理解することができる。 3　対象の状態に合わせて援助方法を選択し、技術を組み合わせて実施する方法を理解することができる。

回数	学習課題	内　　容	方　法	担当教員
1 2 3 4 5 6	専門チームによる技術の発表及び演習 （11時間）	（1）寝衣交換（点滴中を含む） （2）陰部洗浄（男性モデル、バルン留置含む） （3）洗髪 （4）全身清拭 （5）食事介助（1時間） （6）床上排泄（1時間） （7）移乗（ストレッチャー・車いす）（1時間）	演習 発表	専任教員 （　　）
7 8	日常生活援助技術の習得と確認（3時間）	（1）根拠に基づいた看護技術の習得 （2）日常生活援助技術の技術確認※（1時間）	演習 GW ※技術確認	
9 10 11 12 13	対象の状態に合わせた日常生活援助を選択するための観察の視点（9時間）	（1）排泄の援助技術での観察の視点（4時間） （2）食事の援助技術での観察の視点（2時間） （3）清潔の援助技術での観察の視点（2時間） （4）まとめ（1時間）	DVD GW 発表 臨床判断	
14 15 16	事例患者に対する日常生活援助技術の選択とその援助の適用（6時間）	（1）事例患者へ技術を組み合わせて安全安楽に実施する方法を検討（2時間） （2）実施（4時間）	演習 GW	
17	試験（1時間）			

評価方法	筆記試験80点　自己評価10点　ピア評価10点　　合計100点 ＊再試験の場合、筆記試験100点分で評価する。
教科書 参考文献	系看専門　基礎看護技術Ⅱ（医学書院） 新体系看護学全書　形態機能学（メヂカルフレンド社）
事前準備や受講要件等	提示する課題に対して、期限を厳守して提出する。 教科書を読んで講義に臨むこと。
☆担当教員の実務経験	看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。

授業科目	治療・処置に伴う 看護技術	担当教員	専任教員☆	単位数	1	時期	1年次 2月～3月	DP	3
				時間数	３０				

目的と目標	人体の構造・機能の知識を基盤に、治療・処置に伴う看護技術の基本を学ぶ。 1　検査における看護師の役割を理解することができる。 2　検査・治療・処置を安全に行うための基本的知識・技術・態度を習得することができる。

回数	学習課題	内　　容	方　法	担当教員
1	穿刺法	（1）検査・治療・処置における看護者の役割と責任 （2）穿刺法の種類と目的 （3）穿刺に伴う援助	講義 演習	専任教員 （　　）
2 3	吸引･吸入･酸素吸入療法	（1）吸入の援助技術 ①目的・適応 ②吸入の種類と方法 ③酸素吸入療法に伴う援助技術 （2）吸引の援助技術 ①目的・適応 ②吸引の合併症 ③吸引の援助技術	講義 演習	
4 5	非経口的栄養摂取の援助（3時間）	（1）非経口的栄養摂取法の分類と特徴 （2）経鼻経管栄養法 ①胃管挿入と固定の方法 ②栄養剤の注入方法	講義 演習	
6 7	導尿・浣腸	（1）導尿の技術 ①目的・適応・禁忌 ②導尿の種類と方法 ③導尿の実際 （2）浣腸の技術 ①目的・適応・禁忌 ②浣腸の種類と方法 ③浣腸の実際	講義 演習	
8	包帯法（1時間）	（1）包帯法の目的・種類・援助方法 ①巻軸帯　②三角巾　③腹帯	講義 演習	
	臨終時のケア （1時間）	（1）臨終まぢかの状態と看護 （2）死後の身体的変化 （3）死後のケア （4）家族への看護	講義	
9 10 11 12 13 14	与薬の技術 （14時間）	（1）薬物の適用別種類と吸収・排泄の機序 （2）薬物療法に伴う看護の役割 （3）経口及びその他の方法による与薬の技術 ①経口与薬 ②坐薬の与薬 ③その他	講義 演習 GW	

回数	学習課題	内　　容	方　法	担当教員
15	試験（1 時間）	（４）注射の実際 ①皮下注射　②筋肉内注射　③静脈内注射 ④採血　⑤点滴静脈内注射　⑥輸液ポンプ ⑦シリンジポンプ （５）輸血		専任教員 （　　）

評価方法	筆記試験　90 点　自己評価・ピア評価　10 点　　合計 100 点 ＊再試験の場合、筆記試験 100 点分で評価する。
教科書 参考文献	系看専門　基礎看護技術Ⅱ（医学書院） ビジュアル臨床看護技術ガイド（照林社） 新体系経過別　成人看護学④終末期看護エンド・オブ・ライフ（メヂカルフレンド社）
事前準備や 受講要件等	提示する課題に対して、期限を厳守して提出する。 教科書を読んで講義に臨むこと。
☆担当教員の 実務経験	看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。

授業科目	臨床看護総論	担当教員	専任教員☆① 外部講師☆②藤木里美 ③渡邉由佳子	単位数	1	時期	1年次 10月～12月	DP	1 3 4
				時間数	３０				

目的と目標	看護技術の基礎・基本及び日常生活援助技術で学んだ知識・技術をもとに、対象に応じて、安全・安楽に看護技術を適用する方法を学ぶ。 1　健康障害時の主な症状や治療を理解し、苦痛の緩和と日常生活を支える看護について理解できる。 2　事例に合わせて必要な援助を選択し、援助計画の立案ができる。 3　健康障害をもつ対象の状態に応じた看護を行うために求められる看護師の能力について理解できる。

回数	学習課題	内　　容	方　法	担当教員
1 2 3 4	主要症状を示す患者の看護 （8時間）	（1）意識障害のある患者の看護 ①意識障害のメカニズムと主な治療・看護 （2）痛みのある患者の看護 ①痛みのメカニズムと主な治療・看護 （3）循環障害をもつ患者の看護 ①循環障害のメカニズムと主な治療・看護 （4）消化吸収障害のある患者の看護 ①消化吸収障害のメカニズムと主な治療（主に下痢・便秘）・看護	講義	専任教員 （　　）
5 6 7 8 9 10 11 12 13	疾患、症状、治療・処置のある対象の理解と看護の実際 （17時間）	（1）看護過程に基づく実践展開 （呼吸機能障害としてCOPD及び消化吸収機能障害として肝硬変を用いて事例展開する） ①健康状態の把握 ②情報の分析 ③看護計画の立案 （2）臨床判断モデルを取り入れた実践展開 ①援助の実施 ②省察	演習 臨床判断	専任教員 （　　）
14	治療を受けている患者の看護	（1）放射線療法を必要とする患者の看護 ①放射線療法の目的と方法 ②放射線が人体に及ぼす影響 ③放射線療法を受ける患者の看護 ④放射線防護と看護管理	講義	外部講師 （藤木里美）
15		（2）化学療法を必要とする患者の看護 ①化学療法の原理と目的 ②化学療法の副作用 ③化学療法を受ける患者の看護	講義	外部講師 （渡邉由佳子）
	試験（1時間）			専任教員 （　　）

評価方法	筆記試験70点　演習参加状況10点（5～13回） レポート20点「健康障害をもつ対象を理解し、状態に応じた看護を行うために求められる看護師の能力とは」　合計　100点 ＊再試験の場合、筆記試験100点分で評価する。
教科書 参考文献	系看　臨床看護総論（医学書院）／系看　病理学（医学書院） 系看専門Ⅱ呼吸器、消化器（医学書院）看護に役立つ検査事典（照林社） 看護過程に沿った対症看護（学研）／系看別巻　がん看護学（医学書院）
事前準備や受講要件等	提示する課題に対して、期限を厳守して提出する。 教科書を読んで講義に臨むこと。
☆担当教員の実務経験	看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。